

We change “安曇川”

一生懸命 ～学ぶ・動く・つながる～

「信頼」と「信用」・・・その先に

後期開始式で交通ルールとマナーの話をしました。その後、皆さんの様子を見てみると、ある程度の改善が見られ、意識が高まった人がいることはいいことだと思います。ただ、ノーヘルや自転車での並進、右側通行、斜め横断など、相変わらずな人もいて、完全に良くなったとは言えません。

今までの学校生活の様子から、私の話を皆さんが理解してくれるだろう、そして行動に変化がみられるだろうと期待した上での交通ルールとマナーの話だったのです。私の信頼に皆さんが応え、自転車や通学時のマナーが向上している人はたくさんいます。そういった人たちには信用が生まれます。信用は未来に繋がっていくのです。皆さんが今後社会に出ていくにあたり、信用を得ることがいかに大切かをもう一度考えてみてください。社会が欲しているのは、信用のできる人だと私は思うのですが、皆さんはどう考えますか。「信頼」と「信用」の言葉の意味を知り、自分のあるべき姿を考えてみましょう。

信頼・・・信じて頼りにすること。頼りになると信じること。また、その気持ち。

『信頼できる人物』『両親の信頼にこたえる』

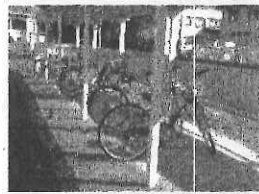
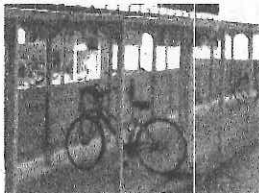
信用・・・①確かなものとして信じて受け入れること。『相手の言葉を信用する』

②それまでの行為・業績などから、信頼できると判断すること。また、世間が与える、そのような評価。『信用を得る』『信用を失う』『信用の置けない人物』『店の信用に傷がつく』

(goo 辞書による)

雨の日の自転車置き場・・・この違いはどこにあるのでしょうか??

とある10月の雨の日。安曇川中学校の自転車置き場には、数えるほどしか自転車は停まっていま
せんでした。(左側の3枚の写真) 同日、市内のある中学校では、ずらっと並んだ自転車を目にする
ことができました。(右側の3枚の写真)

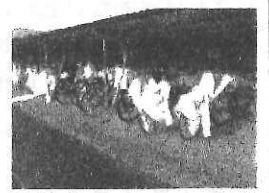


これが何に結び付いているのかは分かりません。雨の日に送迎してもらえることは、生徒にとってはありがたいことではあるでしょう。

学校での様々な活動では、安全面への十分な配慮が要求されています。社会を見回してみても、100%安全だといえる活動などなく、何らかのリスクと隣り合わせであるものです。その中で、いかにそのリスクを察知し、回避し、乗り越えていくか。そういった力を付けていくことが大切だと感じています。

そのためにあらゆる場面で『鍛える』ということをしていく必要があるのではないのでしょうか。

『たかが雨の日の自転車』であるかもしれませんが、『されど雨の日の自転車』ではないのか。このように感じるのは私だけではないように思いますが・・・



「自分のよさ」を見つめ、伸ばそう！！

生徒の思いや考えを知る二つ目の質問は「自分のよいところ+伸ばしたいところ」です。まだ、100名と少ししか聞いていませんが、話に来てくれた生徒たちはとても素晴らしい自己分析ができています。1年生は約9割の人の話を聞いたので、その中の話をいくつか紹介します。

「自分の良いところは？」という質問に対して、『物事に真剣に取り組める』『いろいろな人と仲良くなれる』『ものごとをあきらめずに最後までやれる』『何でも一回挑戦してみる』『面倒見がよい』『大きな声であいさつができる』『困ったりしたら自分から家族や友達に相談できる』『元気』『明るい』『優しい』『スポーツが得意』『自学をたくさんできる』『あまり人見知りをしない』『笑顔』『みんなを笑かすことができる』『遅刻せず余裕をもって行動できる』『周りへの気遣いができる』『人を助けることができる』『積極的』『みんなに意見をはっきり言える』など、具体的な例も挙げていろんなよいところを話してくれました。その良さが続くように、今の姿勢を大切にしてください。

「伸ばしたいところは？」という質問に対しては、『みんなをもっとまとめられるようになりたい』『集中力』『勉強』『勉強を始める時間をだらしなくできっちり始める』『自主学習で復習をたくさんする』『運動・スポーツの技術』『いろんな人を助けたい』『なるべく積極的にいろいろなことに挑戦』『理解力』『もう少し人に優しく』『勇気を出せるように』『暗記力』『メンタルを強く』『暴言をなくす』『怒りっぽいことを治したい』『自転車の技術を伸ばしていろいろなところを走りたい』『頑固すぎず柔らかすぎず』『人に優しく』など、自分の現状を捉え、身に付けたい力などを話してくれました。その実現に向けて一歩ずつ進んでいけるよう頑張りましょう。

さて、そこで最近読んでいる本になかなか興味深い部分があったので紹介します。

「若い人って、とにかく人とつき合うときに、お互い傷つかないように、傷つけないように、その部分にもものすごく気を使っていますよね。LINEのやり取りもそうでしょう。お互いにあつれきが生じないように、社会学者の土井隆義さんが言うところの『優しい関係』を保っています。それが『世間』の関係になっている。同調圧力を気にするばかりに、あんまり悪目立ちしたくない、そもそも自分が目立ちたくないものだから、なるべく自己肯定感を低くする。

生き延びるために自己肯定感を低くして、『世間』になじもうとしているということですかね。

海外で自己肯定感が高いというのは、あくまでも『個人』がベースですから、常に何か主張していないと人間扱いされないといった事情があります。日本人はそもそもそんなことしなくて生きていけるから、逆に目立ってしまうとハブられる。それが怖いんですよ。自己肯定感が低くて当然です。

『世間』に生きていくということは自己を確立する必要がないので、肯定感があるとしたら、自分の所属している『世間』が周りから認められたときだけということですね。……

オリンピック選手が自分で金メダルをとったとしても、「皆様のおかげです」と言うのと同じです。でも、日本ではやっぱりこれは言わないといけないんです。『私の能力が高かったから金メダルをとったんだ』などと言ったらとんでもないことになる。それが自己肯定感の低さにつながるんじゃないですかね。」

講談社現代新書 鴻上尚史 佐藤直樹 著 「同調圧力 ～日本社会はなぜ息苦しいのか～」より

☆中体連第1ブロック駅伝競走大会から

さる11月4日(水)今津総合運動公園で中体連第1ブロックの駅伝競走大会が開催されました。

本校からは、男子2チーム、女子1チームが参加しました。

各自が日頃の練習の成果を発揮しようと力走する姿が輝いていました。結果は、男子Aチームが3位に入り、20日(金)の県大会への出場権を得ることができました。男子Bチームは7位、女子は4位でした。

皆さんお疲れさまでした。

